

評価結果報告書

芦屋市水道事業では、平成 29 年度に「芦屋市水道ビジョン」の改訂及び「芦屋市水道事業経営戦略」の策定を行い、経営目標達成のための具体的な実施計画を掲げている。そして、芦屋市上下水道部では、実施計画の進捗状況を点検・評価し、その結果を「芦屋市水道事業経営戦略実施計画進捗管理シート」及びその総括である「芦屋市水道事業ビジョン及び経営戦略の点検・評価について」にまとめている。

芦屋市水道事業経営計画実施状況評価委員会は、芦屋市上下水道部が行った水道ビジョン・経営戦略の実施状況の点検・評価の結果について評価するため、責任者及び担当者から説明を受け、質疑応答を行い、書類の閲覧を行った。

その結果、平成 30 年度における水道ビジョン・経営戦略の実施状況について芦屋市上下水道部が行った点検・評価は適正なもの認められる。

芦屋市で行われている水道ビジョン・経営戦略の実施状況の自己点検・評価及びそれに対する委員会の検証・評価は、先進的な取り組みと考えられる。人口減少等による需要減や施設更新や耐震化等によるコスト増などにより、厳しい水道事業経営が見込まれる状況のもと、市民の理解を得て、安全で安心できる水道事業を進めていくことが求められる。今回の自己点検・評価で未達成の事項についてその原因を具体的に分析し、改善していくことが、今後の効率的かつ経済的な運営、水道事業の発展につながることを期待する。

以上

令和元年 12 月 14 日

芦屋市水道事業経営計画実施状況評価委員会

委員長 西尾 宇一郎

芦屋市水道事業ビジョン及び経営戦略の点検・評価について

1 点検と評価の仕組みとねらい

総務省は、令和2年度までに経営戦略を策定し経営改善するように通知した。これを受けて、平成29年度に、水道事業経営審議会（以下「水道審議会」という。）を設置し、市民視点に立って経営戦略と水道ビジョン（以下「経営戦略等」という。）の見直しについて審議していただいた。また、経営戦略等の実効性を担保するため、毎年度、水道審議会委員で構成する芦屋市水道事業経営計画実施状況評価委員会（以下「評価委員会」）で実施状況の自己検証について評価していただく仕組みを構築した。

これは決算内容との整合性や最終的な収支改善の実態、今後の見通しなども併せて検証し、現場を預かる担当課長が自己評価することにより、次年度以降の改革に資すると考えたからである。

2 総合的な評価と所見

経営戦略等は、「安定・効率的で持続可能な経営」、「組織の活性化と人材の育成」、「市民から信頼される水道事業」の3本柱を基軸にして、67項目の具体的な実施計画が示されている。これらの項目は、経営の効率化、技術継承のための職員の育成、災害に備えた高耐久性・耐震性資材を用いた老朽施設の更新など多岐に亘っている。平成30年度においては、達成が39項目（58%）、一部達成が14項目（21%）、未達成が9項目（13%）、該当なしが5項目（8%）であった。次に各項目の市の評価の概要を示す。

1) 安定・効率的で持続可能な経営

主要管路の更新時に耐久性・耐震性を備えた100年耐用のGX形ダクタイル鉄管を使用し老朽管の更新を行ってきた。今後も、技術革新に注視し、耐久性・耐震性に優れた配管材料等を活用するよう努めていく。

電気使用量の抑制では、大容量の電力を消費する送水ポンプや計装設備などを将来的に更新する際は、費用対効果が期待できる省電力機器等への交換を検討する。

2) 組織の活性化と人材の育成

奥山浄水場の夜間勤務の一部民間委託の実施や漏水待機体制の見直しなどにより、時間外勤務を減少させた。引き続き、ノー残業デーの意識向上や働き方改革を念頭におき、業務改善に努めていく。

職員の意識改革・能力開発では、事務・技術系の公的資格の取得促進や日

本水道協会全国会議での論文発表等に取り組んだ。

3) 市民から信頼される水道事業

阪神水道企業団の構成市が連携し、「阪神地域の水供給最適化研究会」において共同化・広域化の研究が行われ、水質検査などの共同化を実施し、経費節減にも繋げてきた。

防災対策では、応急給水訓練や、神戸市との合同応急給水訓練のほか、地元自治会主催の地域防災訓練への参加など、緊急時に備えた訓練を実施した。

4) 経営指標

供給単価（170.7円）が給水原価（169.4円）を上回り、昭和56年度以来、営業利益が黒字となった。

管路耐震化率は目標達成ができていないが、令和3年度の43.6%達成に向けて引き続き取り組みを進める。

水道施設見学者割合も同様に目標達成ができていないが、小学生に加えて広く一般の方に施設見学をしていただけるよう取り組み、水道事業への市民の理解を深めていきたい。

3 最後に

経営戦略等は10年程度の中長期の計画であるが、日常的な事業の実施と定期的な点検や評価が計画の実現に繋がっていく。今回は初めての評価であったため、実施計画の一部に着手ができていないものや、着手したが十分に成果を出せていないものもある。市の自己評価の中で明らかとなった課題については、評価委員会の点検や評価を受けて、次年度以降引き続き改善を加えて取り組みを進めていく。

なお、実施計画の具体的な市の評価は別紙「芦屋市水道事業経営戦略実施計画進捗管理シート」に記載のとおりである。

以上

令和元年12月14日

芦屋市上下水道部
部長 古田 晴人

大項目(3)	中項目(9)	小項目(37)	実施計画(67)	水道ビジョン 該当項目	達成 状況	市の評価	担当課
1 安定・効率的で持続可能な経営	①経営資源の有効活用と収入の確保	①水道施設の適正な維持管理	(1)主要管路の耐震化更新の推進(100年耐用管で整備)	2. 2. (2) 水道施設の耐震化	○	・100年耐用の耐震管路GX形ダクタイト耐震管の使用を原則にして管路更新及び整備を行った。 ・平成30年度は2. 8kmの耐震管路の布設を実施した。うち1. 8kmは老朽管の更新工事である。	工務課
			(2)老朽管路の点検及び更新	2. 2. (1) 老朽管等の更新	△	・毎年3kmを目標に、老朽管である普通鋳鉄管・ビニールパイプを更新した。 ・平成30年度は1. 8kmの老朽管の更新を実施した。	工務課
		②未利用地の有効活用	(3)土地台帳の整理	2. 1. (1) 水道施設のデータベース化	○	・公営企業会計システム内の固定資産台帳に登録済みである。	管理課
			(4)未利用地売却等の検討	1. 1. (6) 未利用地の有効活用の検討 2. 1. (2) アセットマネジメントの実践	-	・現時点で未利用地を売却して現金化する必要性がないため、土地の処分及び活用について検討を行っていない。	管理課
		③環境負荷の低減	(5)配水池等における太陽光発電の導入検討	3. 1. (2) 「芦屋市環境マネジメントシステム」の遵守	×	・導入箇所の選定ができなかった。	工務課
			(6)送水管におけるマイクロ水力発電の導入検討	3. 1. (2) 「芦屋市環境マネジメントシステム」の遵守	△	・マイクロ水力発電導入箇所の検討を行った。 ・低区配水池耐震化工事完了後の令和4年度に実施する予定である。	工務課
			(7)水道メーターのリサイクル	3. 1. (2) 「芦屋市環境マネジメントシステム」の遵守	○	・H30年度水道メーター分解個数1,869個。 ・ガラスやリード線を希望する小学校や幼稚園等に配布し、ガラス部分はペーパーウエイトに、リード線はワイヤーアートとしてとぼ等を作成する工作に利用して頂いた。	業務課
			(8)工事の建設副産物(ろ過砂・残土・管等)の再資源化	3. 1. (2) 「芦屋市環境マネジメントシステム」の遵守	○	・平成29年度から浄水場で不要となつたろ過砂を芦屋カンツリーでフェアウェイ用の砂として再利用している。 平成30年度は102mを再資源化した。	工務課
			(9)電気使用量の抑制	3. 1. (1) 省エネルギーの取組	×	・昼休み時の執務室内消灯については、水道管理課の執務スペースに窓がなく消灯すると暗くなるため、実施できていない。また、水道工務課では、昼休みにも電話対応があるため実施できない。水道業務課では昼休み時の執務室内消灯を実施している。 ・現場や会議等で使用しないパソコンは電源を切るよう取り組みをしているが、全課員に至るまでは徹底できていない。 ・電気使用量が多いのは水道施設のポンプがある。入替え時には小電力用のポンプに切り替える。	管理課, 工務課
		④収入確保対策	(10)宅地開発等協力支援	1. 1. (3) 施設更新等の財源確保	○	・特定建築物(マンション等)事前協議を19件(336戸分)受付し協議を行った。なお内5件は協議不要となつた。また特定宅地(土地等)開発事前協議を26件(306区画分)受付し協議を行った。なお内13件は協議不要となつた。	業務課
			(11)水道料金口座振替率の拡大	3. 2. (3) 検針方法見直しの周知 1. 1. (5) 料金体系のあり方の検討	△	・10月, 11月に口座振替促進月間を設け、納付書に口座振替申込み用紙と返信用封筒を同封し送付した。 H30年度口座振替実績 83.38%, H29年度実績83.46%から0.08%の微減となつた。	業務課
		⑤未収金対策	(12)電話・訪問催告の継続実施		○	H30年度電話督促5,360件, 訪問催告件数2,361件 H29年度電話督促2,879件, 訪問催告件数3,933件 H29年度下半期から試行した電話督促により折衝率が11.87%から45.13%に上がったため、H30年度も引き続き、電話督促に注力した。	業務課
			(13)夜間・休日訪問の継続実施		○	・時間外訪問件数 H30年度230件, H29年度239件 ・土曜日の電話督促件数 H30年度1,252件, H29年度113件 ・休日訪問件数 H30年度0件(休日訪問に関しては、電話督促へ変更している。) H29年度319件	業務課
			(14)弁護士催告等の実施		-	・弁護士による催告等の案件がなかったため。	業務課

平成30年度 芦屋市水道事業経営戦略実施計画進捗管理シート

達成状況:○達成できた, △取組中, ×達成できなかった, -該当なし

大項目(3)	中項目(9)	小項目(37)	実施計画(67)	水道ビジョン 該当項目	達成 状況	市の評価	担当課	
1 安定・効率的で持続可能な経営	②民間活力の導入	①水道お客様センター	(15)窓口業務の委託拡大	1. 2. (2) 契約方式の見直し	-	・現状委託拡大できる部分がないため。	業務課	
			(16)水道メーター管理業務の委託	3. 2. (3) 検針方法見直しの周知	○	・水道メーター管理業務を窓口業務を委託している「水道お客様センター」へ委託した。	業務課	
		②浄水場施設	(17)土・日・祝日及び夜間の民間委託	1. 2. (1) 民間活用の推進	△	・平成30年度より、奥山浄水場の夜間運転管理業務について、再任用職員(1名)が従事する夜間勤務枠のみ民間委託した。 ・職員の定年退職に応じて令和5年度から夜間運転管理業務を完全民間委託にする。	工務課	
			(18)終日完全民間委託	1. 2. (1) 民間活用の推進	×	・奥山浄水場職員が再任用期間を終える令和10年度から完全民営化を実施する。	工務課	
		③水質検査	(19)阪神水道企業団へ水質検査の委託拡充	2. 4. (1) 水質管理の徹底	×	・委託する検査項目を検討中。	工務課	
			(20)他都市と水質検査の共同化	2. 4. (1) 水質管理の徹底	○	・兵庫県健康生活科学研究所に委託していた全項目検査をひょうご環境創造協会へ、農業類検査を神戸市へ委託先を変更し、委託費用が420万から140万円となり280万円のコスト縮減を図った。	工務課	
	④維持業務	(21)仕切弁調査・地下埋設管の漏水調査及び修繕等の民間委託	2. 4. (2) 貯水槽水道への指導強化	×	・現在は水道技術職員が直営で対応しているが、退職に伴って民間委託化を進める。	工務課		
		①水質検査等安全性のPR	(22)水の安全性、水質検査結果等をわかりやすくPR	2. 4. (1) 水質管理の徹底	○	・水質の安全性を確保するために行う水質検査の具体的内容(どこで、何を、いつ)を取り決めた水質検査計画を作成してホームページで公表し、水の安全性をPRしている。 ・水質検査結果もホームページで公表している。	工務課	
	②環境・緑化事業のPR		(23)園芸など街並み緑化推進をPR	3. 2. (1) 広報活動の充実	×	・浄水場職員で場内の花壇にパンジーやビオラの花苗を植え付けて緑化推進を行ったが、市民向けのPRは行えなかった。	管理課	
		③減少する水需要への対応	③安全・安心でおいしい水のPR	(24)地ビール、清涼飲料水など芦屋川の渓流水を使用した製品企画	3. 2. (1) 広報活動の充実	○	・水道事業通水80周年記念事業の一環として、奥山浄水場で緩速ろ過した芦屋川の渓流水100%の水を詰めたボトル水を作製。ラベルを通水80周年記念版に変更した。 ・令和元年度から市役所売店でペットボトル水を販売するために、市役所関係課と販売方法などについて調整をした。 ・(有)アイエヌインターナショナル(六甲ビール醸造所)と共同研究を継続し、給水車で1.7tの水を6回運搬し、芦屋ビール9,300リットルを製造した。	管理課
	(25)浄水場見学や出前講座等で水道水の安全性等をPR			3. 2. (1) 広報活動の充実	○	【水道管理課】 ・水道事業80周年記念事業として、小学生向けに芦屋の水ができる過程や水道の歴史等を学んでもらえるDVDを作成し、市内全小学校に配布して教材として活用いただいた。 【水道業務課】 ・市内の全公立小学校(8校)の全校朝礼にて直結給水のPRを実施した。 【水道工務課】 ・水道水ができるまでの過程が学習できるように小学生に奥山浄水場見学会を実施した。平成30年度は、潮見小105人、山手小124人の計229人の生徒と引率の先生9人が来場した。	管理課、業務課、工務課	
	④入浴等のPR	⑤各種フェスタとの連携	(26)水道週間、水の月間での啓発活動	3. 2. (1) 広報活動の充実	○	【水道週間(6月1日～6月7日)】 ・水道事業職員を中心に自己水源である芦屋川の水質を守るために芦屋川上流の清掃活動を行った。また、東館庁舎に水道水の安全性を広報するために懸垂幕を設置。さらに水道週間に係る全国統一ポスターを市役所庁舎及び小学校などに掲示した。 【通水80周年記念事業】 ・9月に市役所北側広場でペットボトル水の無料配布を2日間行い、ペットボトル水768本を配布した。併せて水道水への意識調査や水道水・記念ボトル水・市販のミネラルウォーターの伸び比べを実施。この模様がサンテレビのニュースで取り上げられた。 ・水道水のPRのためにオリジナルクリアファイルを作成し市内小学校全校生徒及び芦屋市防災総合訓練やペットボトル無料配布イベントで配布した。 ・芦屋市庁舎北館広場で、濡れない霧であるドライミストを噴霧し水による屋外冷房空間をつくり水のPRを行った。	管理課	
			(27)入浴と健康との関係等をPR	3. 2. (1) 広報活動の充実	×	入浴と健康との関係で、一定体温を上げることで、健康に良いということについて神戸市水道局が研究しており、それに参加することでPRを実施する予定だったが、そこまで至らなかった。	管理課	
				(28)病院フェスタ、福祉フェア、リレーフォーライフ、防災訓練等と連携し、芦屋の水をPR	3. 2. (1) 広報活動の充実	○	・通水80周年記念ボトル水を6,000本製造した。主な配布状況は以下のとおりである。 病院フェスタ 600本、福祉フェア 1,008本、リレーフォーライフ 1,104本、芦屋市防災総合訓練 720本 無料配布イベント 768本 計4,200本 ※その他市のイベント等にも配布しています。	管理課

大項目(3)	中項目(9)	小項目(37)	実施計画(67)	水道ビジョン 該当項目	達成 状況	市の評価	担当課
1 安定・効率的で持続可能な経営	④費用の抑制	①工事費用・事務費の縮減	(29)経済的設計に努め、管路敷設費用を抑制	1. 2. (3) 先進技術に関する調査・研究	○	【水道工務課】 ・管を布設する際は掘削深さを管の上面より80cmと浅く埋設し、掘削土量等の減量を図っている。また、埋戻しの際は掘削した土を再利用するなど経済的な設計に努めた。	業務課, 工務課
			(30)道路復旧においては、最も経済的な工法を検討	1. 2. (3) 先進技術に関する調査・研究	○	【水道工務課】 ・山手中学校建替工事に伴う配水管布設工事では、他課と工事調整を行い、配水管改良工事136mのうち学校敷地内に布設した114m分の舗装復旧工事(面積340㎡)を他課施工で行うことで水道事業負担分の工事費を縮減した。	業務課, 工務課
			(31)市の無電柱化計画に沿って老朽管を更新		-	・平成30年度は更新路線が無かったため。	工務課
			(32)新技術の活用(管路更生等)	1. 2. (3) 先進技術に関する調査・研究	△	・PE管(高密度ポリエチレン管)採用について調査・研修を実施した。	業務課, 工務課
		(33)車両・備品・消耗品等の支出基準の見直し及び経費節減の徹底	1. 1. (7) 費用の抑制	○	【水道管理課】 ・備品購入の方法などを水道部内に周知した。(平成29年度から実施) ・備品管理台帳を整理し、必要備品及び使用者を記載する方法を導入した。(平成29年度から実施) ・常備以外の備消耗品を購入する際は、その都度、「要求書」の提出を求め、管理課で購入品目、目的等を確認し、適正な予算執行に努めた。(平成29年度から実施) ・例月監査の課内事前打ち合わせ時に、部長による収入・支出内訳の内容確認を実施した。(平成28年度から実施) ・備消耗品費決算額 H28 8,549,700円 H29 4,235,496円(対前年度比▲4,314,204円) H30 3,713,988円(対前年度比▲521,508円) ※4条予算含む 【水道業務課】 H30年度メーター取替件数4,940個、内5線リモートから直読検針への移行はマンション54棟1,743個メーター取替前に各マンションのオーナー等に連絡し、検針方法の変更について説明し理解を得ている。	管理課, 業務課	
		②道路掘り返しの抑制	(34)中長期(5~10年)で工事調整を行い、他工事(道路・下水・ガス等)施工区間に随伴して、老朽管を更新	1. 1. (1) 業務改善・効率化の推進	△	・無電柱化推進計画事業の所管課が示す年次計画を基に道路課と工事調整を行い、平成29年度はさくら参道で681mの老朽管を更新し、平成30年度は山手中学校建替工事で114mの老朽管を更新した。	工務課
		③関係機関への要望	(35)国道・県道での水道管改良工事において、仮管理設工事や道路復旧工事に関して経済設計を協議	1. 1. (1) 業務改善・効率化の推進	-	・対象路線が無かったため。	工務課

大項目(3)	中項目(9)	小項目(37)	実施計画(67)	水道ビジョン 該当項目	達成 状況	市の評価	担当課
2 組織の活性化と人材の育成	①組織の活性化	①時間外勤務の適正化	(36)業務整理により時間外勤務の縮減	1. 1. (1) 業務改善・効率化の推進	△	水道事業全体の時間外勤務時間 H29年度 5,943時間/年 H30年度 5,358時間/年(対前年度比▲585時間) 減少の主な要因は働き方改革による意識改革や奥山浄水場の夜間勤務を一部民間事業者へ委託したことによるものである。 【水道管理課】・・・△ 労務事務の増加による。 H29年度 799時間/年 H30年度 886時間/年(対前年度比+87時間) 【水道業務課】・・・△ 新規取組み(水道台帳図面の整備)について時間外勤務が必要となった。 H29年度 353時間/年 H30年度 388時間/年(対前年度比+35時間) 【水道工務課】・・・○ 浄水場1人分が夜間委託開始による。 H29年度 4,791時間 H30年度 4,084時間 (対前年度比▲707時間)	管理課, 業務課, 工務課
			(37)ノー残業デーの定時退庁の徹底	1. 1. (1) 業務改善・効率化の推進	○	・ノー残業デーの残業時間数 H29年度 415時間/年 H30年度 304時間/年(対前年度比▲111時間) 水道事業全体でノー残業デーの残業時間が減少した。 減少の主な要因は、イベント動員、本調定日等代替できない日以外での定時退庁を徹底し、ノー残業デーは残業しないという意識が向上したことや奥山浄水場を除く水道工務課において漏水や工事管理が減少したことによるものである。 (参考)水道工務課におけるノー残業デーでの1人あたり漏水対応回数 H29年度 2.19回/年 H30年度 0.65回/年(対前年度比▲1.54回)	管理課, 業務課, 工務課
			(38)土曜・日曜・祝日出勤の抑制	1. 1. (1) 業務改善・効率化の推進	○	水道事業全体の土曜・日曜・祝日の延べ出勤数 H29 636日 H30 567日(対前年度比▲69日) 新規取組等については時間外勤務が必要となりながらも減少した主な要因は、平成30年度は水道事業経営審議会による休日出勤がなかったことや防災訓練への参加、漏水対応が減少したため。	管理課, 業務課, 工務課
		②給与制度の適正化	(39)市と連携		○	市の人事当局と共通する給与制度について、協議した。 (給与改定:俸給表の水準を0.16%引き上げ, 3級職員(係長級職員)の給料月額1%削減 期末勤勉手当:0.05月加算 その他:施設管理者の職にある者の管理職手当の引き上げ, 非常作業手当の支給基準の拡大)	管理課
			(40)条例・規程等に基づく適正な運用		○	労使交渉で決まった内容に基づき以下のとおり規程を改正し、適正な運用を行った。 ・芦屋市水道企業職員の給与に関する規程(俸給表の0.16%引き上げ, 3級職員(係長級職員)の給料月額1%削減, 期末勤勉手当0.05月加算) ・芦屋市水道企業職員の特殊勤務手当に関する規程(施設管理者の職にある者の管理職手当の引き上げ, 非常作業手当の支給基準の拡大)	管理課
		③組織体制の適正化	(41)業務量に見合った適正な職員配置	1. 1. (1) 業務改善・効率化の推進	○	水道事業の職員数の推移 H28 37人 H29 36人 H30 32人 業務の改善を行いながら、職員数の適正化に努めている。	管理課
			(42)下水道事業と共通する部署の統合を検討	1. 1. (1) 業務改善・効率化の推進	○	・水道事業と下水道事業の事務統合を行った伊丹市や西宮市などへの視察調査を本市下水道課の職員と実施し、統合することによるメリット、デメリットなどの検討を行った。	管理課
			④経営の進行管理	(43)収支計画に基づく予算配分等経営管理	1. 1. (2) 計画的経営の実践の検討	○	・経営戦略内の収支計画における企業債借入額を上限として資金の借入を行った。 ・予算編成では各係ごとに予算ヒアリングを実施し、案件によっては現地確認を行って予算採否を行った。
		(44)業務指標PIの積極的な活用		1. 1. (2) 計画的経営の実践の検討	△	・決算数値を用いて業務指標PIを算定したが他市との経営比較や経営分析等積極的な活用はできていない。	管理課

大項目(3)	中項目(9)	小項目(37)	実施計画(67)	水道ビジョン 該当項目	達成 状況	市の評価	担当課	
2 組織の活性化と人材の育成	②事業の効率化・職場の効率向上	①セキュリティシステムの適正化	(45)庁舎・情報等セキュリティ管理や個人情報漏洩防止の徹底と研修実施	2. 3. (1) 危機管理マニュアル・体制の整備	○	・情報を外部に出す場合は、常時指定のUSBメモリを使用し、暗号をかけている。 また業務上必要なマイナンバーは金庫で保管し、個人情報の漏洩防止を徹底している。 ・市の情報政策課主催の情報セキュリティ研修に参加した。	管理課	
		②業務内容の点検と改善	(46)水道年報の発行			○	平成31年3月に発行し、市議会や市の部課長級などに配布した。また、ホームページでも公開している。 資料編には平成20年度以降10年間で行った被災地への応急給水活動の実施状況について記載した。	管理課, 業務課, 工務課
			(47)業務マニュアルの作成			×	未実施。	管理課, 業務課, 工務課
			(48)効率性を高めた業務の見直し	1. 1. (1) 業務改善・効率化の推進	○	・浄水場夜間勤務の一部や議事録の作成を業務委託した。また水道メーターの管理を業務委託したことで職員数が3名減となった。	管理課, 業務課, 工務課	
		③事務事業の見直しと改善	(49)事務事業評価の導入	1.3. 職員の資質向上	△	・事務事業評価に代えて、経営戦略進捗管理の自己検証を進めることとした。	管理課, 業務課, 工務課	
	③職員の意識改革・能力開発	①人事評価システムの導入	(50)人事評価システムの導入	1.3. 職員の資質向上	△	【水道管理課】・・・○ ・各自で1年間の目標を設定し、4月、10月、1月にそれぞれ上司と面談を行い、目標を達成する業績評価を取り入れた人事評価システムを試験的に導入した。 【水道業務課】・・・△ ・一部職員を除いて人事評価システムを試験的に導入した。 【水道工務課】・・・× ・未実施	管理課, 業務課, 工務課	
			(51)技術力向上のため、公的資格取得を推進	1.3. 職員の資質向上	△	【水道管理課】・・・○ ・業務に必要な公的資格を公費で取得できるよう、水道企業職員における「検定料助成制度」設置の検討を行った。 ・1名が給水装置工事主任技術者を取得。 【水道業務課】・・・× ・平成30年度においては公的資格を取得した職員はいない。 【水道工務課】・・・○ ・1名が1級土木施工管理技士を取得。	管理課, 業務課, 工務課	
		②技術資格等取得促進	(52)事務能力向上のため、公的資格取得を推進	1.3. 職員の資質向上	△	【水道管理課】・・・○ ・業務に必要な公的資格を公費で取得できるよう、水道企業職員における「検定料助成制度」設置の検討を行った。 ・1名が日商簿記検定3級を取得。 【水道業務課, 水道工務課】・・・× ・事務系の公的資格を取得した職員はいない。	管理課, 業務課, 工務課	
			③技術研究発表の促進	(53)日本水道協会等への論文投稿・発表	1.3. 職員の資質向上	○	【水道管理課】・・・○ ・平成30年10月24日に日本水道協会が主催した「全国会議第94回総会・水道研究発表会」において「芦屋川の渓流水を使ったビールの共同研究 - 共同研究による広報活動のあり方 -」を発表した。 ・平成31年1月23日に開催された「平成30年度芦屋市技術職員発表会」において上記の研究内容と「耐震性貯水槽移設の施工事例」を発表した。 【水道業務】・・・× 実績なし 【水道工務課】・・・△ 平成31年度に日本水道協会の全国会議で発表する論文の準備を行った。	管理課, 業務課, 工務課

大項目(3)	中項目(9)	小項目(37)	実施計画(67)	水道ビジョン 該当項目	達成 状況	市の評価	担当課
3 市民から 信頼される水 道事業		④交流人事の促進	(54)阪神水道企業団及び構成市等との人事交流	1.3. 職員の資質向上	○	・水道工務課から兵庫県まちづくり技術センターに土木職員1名を平成30～31年度の2年間派遣した。 ・水道業務課から岡山県高梁市に災害復旧のため、土木職員1名を10月～3月末までの約半年間派遣した。 ・水道業務課では阪神7市1町給水装置協議会を年3回開催している。 ・阪神水道企業団及び構成市における「水質検査共同化に関する水道実務者会」が西宮市鳴尾浄水場で行った若手職員対象の勉強会に3名が参加した。 ・兵庫県まちづくり技術センターへ水道工務課職員1名を派遣した。	管理課, 業務課, 工務課
		⑤近隣市との合同研修	(55)阪神水道企業団及び構成市等の合同研修	1.3. 職員の資質向上	○	・各団体主催研修に下記のとおり参加 大阪市水道局主催の研修 9名 神戸市水道局主催の研修 3名 日本水道協会兵庫県支部及び関西地方支部主催の研修 18名 ・阪神水道企業団及び構成市における水質検査共同化に関する水道実務者会が西宮市鳴尾浄水場で行った若手職員対象の勉強会に3名が参加した。	管理課, 業務課, 工務課
	①市民サービ スの向上	①阪神間での連携強化	(56)合同応急給水訓練を実施	2. 3. (2) バックアップ機能の充実	○	・10/30日本水道協会兵庫県支部主催の阪神水道企業団尼崎浄水場での応急訓練実務訓練に2名が参加した。 ・10/31芦屋市と神戸市主催で山手幹線で神戸・芦屋合同応急給水訓練に芦屋市から8名が参加した。	管理課, 業務課, 工務課
			(57)水質試験共同化にかかる実務者研修会等を実施	2. 4. (1) 水質管理の徹底	○	・11/ 2尼崎市神崎浄水場で開催された若手中心の「第4回勉強会」に3名が参加した。 ・11/28同市神崎浄水場で「第9回勉強会」に2名が参加した。	工務課
		②水道事業の広域化	(58)阪神水道企業団及び構成市による「阪神地域の水供給最適化研究会」で共同化・広域化を検討	1.4. 広域的連携の推進 1. 1. (4) 阪神水道受水費の軽減	○	【水道管理課】 ・阪神地域(阪神水道企業団・神戸市・尼崎市・西宮市・宝塚市・芦屋市)における40年間の財政収支シュミレーションを実施し、研究をしている。 ・阪神地域の水供給最適化研究会を4回開催した。 【水道工務課】 ・芦屋地域高水圧地域の解消及び神戸市所有の配水池を廃止して芦屋市と共同で保有するための新配水池を整備できるかどうかを検討した。	管理課, 工務課
			(59)兵庫県水道事業のあり方懇談会神戸・阪神南地域で広域化を検討	1.4. 広域的連携の推進	○	・兵庫県が主導する「兵庫県水道事業のあり方懇話会」での広域化の検討については、阪神地域の水供給最適化研究会で検討することとなった。	管理課, 工務課
		③防災訓練	(60)各種防災訓練に加え隣接市と緊急連絡管の操作訓練等を実施	2. 3. (3) 訓練等の実施	○	・11/4芦屋市防災総合訓練に水道事業職員とともに芦屋市水道工事共同組合が参加して、漏水を想定した水道本管応急復旧訓練や給水車を使った応急給水訓練を行った。 ・10/31芦屋市と神戸市主催で山手幹線で神戸・芦屋合同応急給水訓練を実施した。 ・浜風・岩園・潮見小校区の地域防災訓練に参加し応急給水活動の訓練を実施した	管理課, 業務課, 工務課
		④市民に信頼される職員の育成	(61)朝礼の実施	3. 2. (2) 公聴活動の充実	△	【水道管理課】・・・○ ・毎朝、始業前に実施し各職員のスケジュールや連絡、報告事項を共有した。 【水道業務課】・・・△ ・代替の取り組みとして、課員全体のスケジュール表を作成して対応している。 【水道工務課】・・・△ ・全員に周知が必要なときは、その都度報告や連絡をおこなっている。	管理課, 業務課, 工務課
			(62)接遇研修の実施	3. 2. (2) 公聴活動の充実	△	【水道管理課, 水道工務課】・・・× 実施せず 【水道業務課】・・・○ 電話対応を主としてOJT形式で実施している。	管理課, 業務課, 工務課

大項目(3)	中項目(9)	小項目(37)	実施計画(67)	水道ビジョン 該当項目	達成 状況	市の評価		担当課
3 市民から 信頼される水 道事業	②透明性の向 上	①分かりやすい情報発 信	(63)イベントの開催や出展 等の情報を発信	3. 2. (1) 広報活動の充実	○	【水道週間(6月1日~6月7日)】 水道事業職員を中心に自己水源である芦屋川の水質を守るために芦屋川上流の清掃活動を行った。 また、東館庁舎に水道水の安全性を広報するために懸垂幕を設置。さらに水道週間に係る全国統一ポスター を市役所庁舎及び小学校などに掲示した。 【通水80周年記念事業】 ・9月に市役所北側広場でペットボトル水の無料配布を2日間行い、ペットボトル水768本を配布した。併せて水 道水への意識調査や水道水・記念ボトル水・市販のミネラルウォーターの伸び比べを実施。この模様がサンテ レビのニュースで取り上げられた。 ・水道水のPRのためにオリジナルクリアファイルを作成し市内小学校全校生徒及び芦屋市防災総合訓練や ペットボトル無料配布イベントで配布した。 ・芦屋市庁舎北館広場で、濡れない霧であるドライミストを噴霧し水による屋外冷房空間をつくり水のPRを 行った。		管理課, 業務課, 工務課
			(64)積極的な情報開示(水 道料金・耐震化・給与制度 など)	3. 2. (1) 広報活動の充実	○	【水道管理課】 ・入札結果, 予算, 決算書をホームページに掲載した。 ・広報あしや7月15日号で、通水80周年記念として「芦屋のおいしい水」の特集を組んで芦屋市水道事業につ いてPRを行った。 ・広報あしや11月号で決算概要を掲載し、情報開示した。		管理課
		②ホームページの活用	(65)工事, 漏水対応, イベント 情報等を迅速に公表	3. 2. (1) 広報活動の充実	○	【水道管理課】 ・イベント情報をホームページに掲載。(ペットボトル水無料配布, ドライミスト設置) 【水道業務課】 ・ホームページの給水装置工事事業者一覧の更新頻度を年に1, 2回程度から2か月に1回に変更した。 ・台風による特別な減免を掲載した。 【水道工務課】 ・適宜ホームページに工事名, 工事期間, 工事事内容を掲載した。 ・応急給水訓練についても, 実施後速やかに掲載した。		管理課, 業務課, 工務課
		③給与制度等の公表	(66)水道年報, ホームペー ジ等で情報発信	3. 2. (1) 広報活動の充実	○	・給与情報等を含む平成29年度水道事業年報(芦屋市水道事業80周年誌)をホームページに掲載した。 ・給与情報等を含む平成29年度決算書をホームページに掲載した。		管理課
	④収支計画の公表	(67)毎年見直し, ホーム ページ等で公表	3. 2. (1) 広報活動の充実	×	収支計画の見直しが実施できていないため、公表できていない。		管理課	
4 経営指 標	業績指標	単位	平成33年度推定目標	水道ビジョン 該当項目	達成 状況	指標の意味	平成30年度実績値	担当課
	純利益	千円	185,437	1. 1. (2) 計画的経営の実践 の検討	○	1年度の最終的な利益。	281,051千円	管理課
	営業収支比率	%	97		○	営業収益の営業費用に対する割合を示すもので、収益性を表す指標の一つ。	100.75 %	管理課
	経常収支比率	%	104		○	経常費用が経常収益によってどの程度賄われているかを示すもので収益性を表す指標 の一つ。	108.71 %	管理課
	総収支比率	%	110		○	総費用が総収益によってどの程度賄われているかを示すもので収益性を表す指標の一 つ。	114.15 %	管理課
	供給単価	円/m3	167.7		○	有収水量1m ³ (1000ℓ)当たりの給水収益の割合を示すもので、どれだけの収益を得てい るかを表す指標の一つ。	170.7円/m ³	管理課
	給水原価	円/m3	178.8		○	有収水量1m ³ (1000ℓ)当たりの経常費用の割合を示すもので、水道事業でどれだけの費 用がかかっているかを示す指標の一つ。	169.4円/m ³	管理課
	有収率	%	93.90		○	供給される水量がどの程度収益につながっているかを表す指標の一つ。	95.03 %	管理課
	管路の耐震化率	%	43.60		×	導・送・配水管全ての管路の延長に対する耐震管の延長の割合を示すもの。	40.70 %	工務課
	水道施設 見学者割合	人/1000人	5		×	給水人口に対する水道施設見学者の割合を示すもので、お客様との双方向コミュニケ ーションの推進度合いを表す指標の一つ。	2.5 人	工務課